

きて。骨董市や、こけし祭りに買いに行ったりして、少しづつ集まつたんです。」こけし祭りとは、宮城県の鳴子温泉で開かれる『全国こけしまつり』のことで、日本全国のこけしが勢ぞろいするのだそう。『メインの販売会場が、鳴子小学校の体育館なんですよ。面白いでしょう。』体育館に作られたブースで、それぞれ工人（こけしの作り手）たちが自らこけしを販売しているのだそうだ。『工人さんと直接触れ合うことができる事もあるって、各地からこけしファンが集まるんです。』町中がこけしで盛り上がり楽しいんですよと、日和さんはその時の写真を見せてくれた。

日和さんの家には40本以上

空いてるところとか、生活空間に置いてます。そうすると、普段は、こけしのことは忘れ

日和さんのお気に入りのラインナップ。左から、①帽子とマントが斬新（土湯系）、②個性的な『たこ坊主』（土湯系）、③土台に差し込む形の『えじこけし』（作並系）、④①と同じ工人の作品（土湯系）、⑤グリーンのボーダーがおしゃれ（遠刈田〈とおがった〉系）、⑥『こけし友の会』の前会長が日和さんのことを聞きつけやってきた時にプレゼントされたこけし（遠刈田系）。「リュックの中から何体か出して、好きなのをどうぞ」とくれたんです。』



ものこけしがあるのだという。どのように楽しんでいるのかと聞いてみると「人それぞれだと思うんですけど、私は本棚の声を弾ませた。日々の生活の中、そこにあるだけで、ふつと力が抜ける。こけしはそんな存在なのかもしれない。」

「あとは、私がこけし好きだと知つて、お客様がプレゼントしてくれることもありますね。うれしいですよね。」

実はこの日は、市民会館の食堂が閉店する前日だった。取材後、思い出にとみんなで笑つた。

読者プレゼントあり！／詳しくは、巻末のプレゼントコーナーをご覧ください。

うんです。かわいいなーって！ テンション上がりますね。』と声を弾ませた。日々の生活の中、そこにあるだけで、ふつと力が抜ける。こけしはそんな存在なのかもしれない。

「あとは、私がこけし好きだと知つて、お客様がプレゼントしてくれることもありますね。うれしいですね。」

実はこの日は、市民会館の食堂が閉店する前日だった。取材後、思い出にとみんなで笑つた。

お菓子が入っていたんです。

話が出来て楽になつたと、手紙をもらいました。私は何も

できなければ、少しでもお役に立てて嬉しかつたです

ね。』日和さんは嬉しそうに

紙をもらいました。私は何も

できなければ、少しでもお役に立てて嬉しかつたです

ね。』日和さんは嬉しそうに